

## 火山噴火予知連絡会衛星解析グループの活動について

### Progress Report on the Satellite Analysis Group of the Coordinating Committee for Prediction of Volcanic Eruption

# 気象庁地震火山部火山課 白土 正明 [1]

# Shirato Shoumei Japan Meteorological Agency Volcano Division[1]

[1] -

[1] -

火山噴火予知連絡会は、火山学研究等における衛星データの利用方法を調査・検討するために「衛星解析グループ」を設置した。衛星解析グループの目的は、第一に衛星観測データによる日本付近の主要活火山における火山活動の監視及び地殻変動等の検出手法、第二に衛星データによる噴火時の噴火の規模や影響の範囲の把握である。

衛星解析グループは2007年3月から地球観測衛星ALOS「だいち」の観測データを用いて防災関連業務に役立てることを目的とした防災利用実証実験に参加し、衛星データによる火山活動評価への利用方法を調査・検討してきた。この実証実験には、気象庁（気象研究所を含む）、国土地理院、海上保安庁、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、土木研究所、岩手県、宇宙研究開発機構・地球観測センターが参加した。この実証実験の実施にあたり、宇宙航空研究開発機構から衛星データの提供や解析手法等の研修による技術的な支援を受けた。

ALOSのPALSARデータを用いた干渉SAR解析からは、雲仙岳、硫黄島、吾妻山や雌阿寒岳等では火山活動に関係する地殻変動が検出された。光学画像であるAVNIR-2やPRISMデータの解析からは、ある程度の規模以上の火口の地形変化の抽出や噴気活動の把握が可能であることや海底火山の変色域の把握に利用できる可能性が確認された。

本講演では、2年間の実証実験で得られた成果を報告する。